

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新川工業株式会社 新工場	階数	地下0階地上3階
建設地	愛知県大府市北崎町井田236番1 他19筆	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	150 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,500 時間/年
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年7月 予定	評価の実施日	2021年8月30日
敷地面積	9,582 m ²	作成者	小室 武
建築面積	4,261 m ²	確認日	2021年8月30日
延床面積	7,323 m ²	確認者	小室 武



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	81%
③上記+②以外の	81%
④上記+	81%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.4

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.7</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>2.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>26.1 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	26.1 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	26.1 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>2.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準	重点項目	評価点	評価点	重み係数	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		重み係数	
						評価点	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境											
1 音環境											
1.1 室内騒音レベル			0.1	3.4	0.15	-	-	-	-	3.4	
1.2 遮音			3.0	3.0	0.40	-	-	3.0	-	-	
1 開口部遮音性能		T-2	0.4	4.2	0.40	-	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能			-	5.0	0.60	-	-	3.0	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	3.0	0.40	-	-	3.0	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	3.0	-	-	-	3.0	-	-	
1.3 吸音			-	3.0	0.20	-	-	3.0	-	-	
2 温熱環境											
2.1 室温制御			0.3	2.4	0.35	-	-	-	-	2.4	
1 室温			0.5	2.6	0.50	-	-	-	-	-	
2 外皮性能			3.0	3.0	0.38	-	-	3.0	-	-	
3 ゾーン別制御性			3.0	3.0	0.25	-	-	3.0	-	-	
2.2 湿度制御			3.0	2.0	0.38	-	-	-	-	-	
2.3 空調方式			3.0	1.0	0.20	-	-	3.0	-	-	
3.0 空調方式			3.0	3.0	0.30	-	-	3.0	-	-	
3 光・視環境											
3.1 昼光利用			0.2	3.0	0.25	-	-	-	-	3.0	
1 昼光率		3階事務所 昼光率2.253%	0.3	3.6	0.30	-	-	-	-	-	
2 方位別開口			3.0	4.0	0.60	-	-	3.0	-	-	
3 昼光利用設備			-	-	-	-	-	3.0	-	-	
3.2 グレア対策			3.0	3.0	0.40	-	-	3.0	-	-	
1 昼光制御			0.3	3.0	0.30	-	-	-	-	-	
3.3 照度			5.0	3.0	1.00	-	-	3.0	-	-	
3.4 照明制御			3.0	2.0	0.15	-	-	3.0	-	-	
3.0 照明制御			3.0	3.0	0.25	-	-	3.0	-	-	
4 空気環境											
4.1 発生源対策			0.2	3.3	0.25	-	-	-	-	3.3	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆を全面的に使用 ホルムアルデヒド以外のVOCについても放散量の少ない建材を全面的に使用	0.5	4.0	0.50	-	-	-	-	-	
4.2 換気			3.0	4.0	1.00	-	-	3.0	-	-	
1 換気量			0.3	2.3	0.30	-	-	-	-	-	
2 自然換気性能			3.0	3.0	0.33	-	-	3.0	-	-	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	3.0	0.33	-	-	3.0	-	-	
4.3 運用管理			3.0	1.0	0.33	-	-	3.0	-	-	
1 CO ₂ の監視			0.2	3.0	0.20	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御			3.0	-	-	-	-	-	-	-	
3.0 喫煙の制御			3.0	3.0	1.00	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能											
1 機能性											
1.1 機能性・使いやすさ			0.4	3.0	0.40	-	-	-	-	3.1	
1 広さ・収納性			0.4	2.6	0.40	-	-	-	-	3.0	
2 高度情報通信設備対応			3.0	3.0	0.33	-	-	3.0	-	-	
3 バリアフリー計画		独自	3.0	2.0	0.33	-	-	3.0	-	-	
1.2 心理性・快適性			3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-	
1 広さ感・景観(天井高)			0.3	3.0	0.30	-	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		2階に会議・休憩・食堂スペース200㎡(自販機・給茶機有り)	3.0	1.0	0.33	-	-	3.0	-	-	
3 内装計画			3.0	5.0	0.33	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理			3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い内装材使用 壁面の凹凸は極力少ない 維持管理方法の異なる床材近接無し 水切り設置	0.3	3.5	0.30	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保			3.0	4.0	0.50	-	-	-	-	-	
3.0 維持管理用機能の確保			-	3.0	0.50	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性											
2.1 耐震・免震・制震・制振			0.3	3.0	0.31	-	-	-	-	3.0	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			0.3	3.2	0.33	-	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②	-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		耐用年数の長い材料を使用 : 床フェロコン、天井ジプトーン(25年)	-	2.0	0.23	-	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			-	5.0	0.09	-	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			-	3.0	0.08	-	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用しEは不使用	-	5.0	0.15	-	-	-	-	-	
2.4 信頼性			-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	
1 空調・換気設備			0.1	2.8	0.19	-	-	-	-	-	
2 給排水・衛生設備			3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	
3 電気設備			3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	-	
4 機械・配管支持方法			3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	
5 通信・情報設備			3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	

3 対応性・更新性			0.2	3.4	0.29	-	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	工場部分4.75m 壁長さ比率0.083	-	5.0	0.60	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	4.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②	-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.38	-	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.8	3.0	5.0	0.22	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.12	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.71	3.0	3.9	0.46	-	-	-	3.9
4 効率的運用			0.2	2.0	0.20	-	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			1.0	2.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	1.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.0
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		節水型便器、手洗いに自動水栓	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.7	0.63	-	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減		② 独自	-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			-	3.0	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	3.0	2.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	3.0	4.0	0.24	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	独自	-	5.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		①	-	3.7	0.33	-	-	-	3.7
2 地域環境への配慮			0.3	2.9	0.33	-	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	2.7	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	-	4.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自	-	3.0	0.50	-	-	-	
2	振動	独自	-	3.0	0.50	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制		-	3.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	4.4	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	5.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)新川工業株式会社 新工場

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10
② 資源の有効活用			2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19
③ 敷地内の緑化			2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.11
			外構緑化:26.1%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	事務所エリアは昼光率を高くし、十分な広さのリフレッシュスペースを設けるなど、従業員の作業環境に配慮した。また、敷地外周部の法面を利用して緑地を設け、外部環境に配慮した。
Q1 室内環境	事務所エリアは昼光率を確保し、空気環境に配慮した材料(F☆☆☆☆)を全面的に使用するなど、室内環境に配慮した。
Q2 サービス性能	自動販売機や給茶器を設置した十分な広さの休憩スペースを確保し、従業員がリフレッシュできるようにした。また、更新間隔の長い設備配管の採用し、建物部材の耐用年数に配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地の外周に設けた緑地により、良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	LED照明等による設備システムの高効率化によりBEIm=0.71としている。
LR2 資源・マテリアル	節水型便器や自動水栓の採用による水資源保護への配慮、解体時には、分別が容易な工法、再利用可能なユニット部材を採用している。
LR3 敷地外環境	敷地内に駐車スペースを確保し、十分な広さの車両出入口を設けることにより、周辺の交通状況に配慮している。
その他	特になし